



三才児保育の重要なこと

南 信 子

私どもの *Nursery School* は幼稚園入園前の三才児のための教育施設として、昭和二十九年五月に開設されました。開設の主な動機は、三才を過ぎた子どもたちがもはや家庭の生活だけでは満足できない成長発達の状態にあることを、多くの母親たちが実感しており、三才児のためのよい教育施設を求めている人々が意外に多いことを見聞したことに端を発します。何とかしてこの要望にこたえたいと念願いたしました。これらの子どもたちを幼稚園に三年保育として入園させることには種々の問題があることを思い、三才児のために独自の保育の場が必要であることを痛感し *Nursery School* の実現に努力いたしました。

Nursery School という名前には一般には非常に理解されにくいことを思い、もっと親しみやすい日本語にと考えたのでありますが、適当な名前がなく、結局欧米における教育施設としての *Nursery School* の目的や方法に共感し、その伝統を日本の地に生かしてみた

いという希望のもとに、そのまま *Nursery School* とよぶことになりました。このことはまた、開設にあたってこれを直接指導されたアメリカのスマス大学で、*Nursery School* の講座を担当されていたウイン女史を覚える意味にもなったのであります。

開設以来十年の年月を経過しようとしています。研究は思うにまかせず、その資料も徴々たるもので発表の段階ではありませんが毎日の生きた子どもたちの生活を通して、三才児保育の重要なこと一端にふれてみたいと思います。

* 楽しい遊びの場としての *Nursery School*

三才児の生きがいや遊びであるといつてよいと思います。彼らからこれを除けば何が残るでしょうか。遊びは楽しい経験であり、この楽しさは彼らの人生にとってかけがえのないものです。子どもたちは遊びにその全生命を打ちこみます。私どもの *Nursery School* のプログラムの大部分は自由遊びであります。この時間に子ども

たちはどんな遊びを誰と、どのように展開させるかは教師たちの最大関心事です。二十五人の子どもたちをみつめる三人の先生の目は真剣そのものです。このために環境をととのえ、反応を観察し、指導をあやまらないことを心がけねばなりません。この遊びを通して行動の型が形成され、人と物に対する本質的な把握をするといえましょう。物の見方、感じ方、考え方の方向づけをし、それが望ましい状態で伸びてゆくために深い心づかいが必要です。ある日の自由遊びから学んだことの一つ二つを紹介したいと思います。

A君、保育室の中でワゴンをひっぱりまわしています。積木も本も人形もパズルもみんなワゴンに投げこんで走ります。他の子どもが遊んでいる積木まで取り上げてゆきます。しかし何と活発な機敏な動作でしょう。あっけにとられて見ている子ども、怒って積木をとりかえしにゆく子ども、しかしA君は落ちついた態度でそれに応じています。先生の目がA君の行動のあとをおっています。

何分たつたでしょうか。A君、今度はペンキ屋さんになって静かにワゴンにペンキをぬっています。空罐に刷毛が彼の道具です。もちろんペンキは入っていません。しかし何と真剣な面持ちでしょう、手つきのよいこと。そして、ちゃんと中に入っているものを皆取り出していいいにぬっています。そばに人がくるとペンキぬりたて、さわってはだめ、と注意します。ワゴンから出した人形や絵本の中からさつき取りあげてきた積木をかえしにゆきました。別人のようです。私はこの二つの場面にあらわれたA君の変化に驚かざる

をえません。それと同時にこの二つの場面の中に彼の行動を方向づけた先生の行き届いた指導があったことを見逃すことができません。三才児独得のその活動力、想像力の豊かさ、自己表現の巧みさ、乱暴である反面、静かで神経の細かいA君の個性の特長、それらの中には、あらゆる可能性が含まれているように思われます。

保育室のもう一方の隅は美容院です。美容師はB子、お客様はC子、B子はまじめな顔でC子の髪をいじっています。櫛を使って、時々空びんのローションをさかさにしてふります。すんだ時には肩にかけていたあやしげな布をちゃんとはらって、はい、どうぞ、には恐れいります。次のお客様は何と赤ん坊をさかさまにおんぶしてやってきました。やおら人形をおろしておしっこをさせます。すんだと見えて人形の両足をひろげてもった手をこきざみに二、三度ふっています。自分が赤ん坊の時に母親にしてもらったことをそのままするのでしょうか。その観察眼のするとき、記憶のよさには舌をまかざるをえません。

彼らはこのような豊かな遊びの中で自ら見たり聞いたりしたことを見現いたします。それらはさまざまのごっこ遊びとなって多彩に繰りひろげられます。ごっこ遊びは三才児独得の世界です。

その楽しい雰囲気は Nursery School でなくては見られない風景です。子どもの天国そのものです。しかし三才児のためにはそのごっこ遊びにも先生の適切な指導が必要です。助言や、話しあいによってよりよい方向に遊びが発展し刻々におこるさまざまの問題が解

決されてゆきます。しかし先生の思いをこえて遊びを創造してゆく子どもたちのすばらしさには到底おとなは及びません。よくとのえられた環境と、機敏で適切な指導をする聡明な先生によって、自由遊びはいよいよ価値のあるものとなります。

遊びの相手は先生であることも少くありませんが、ほとんど子ども同志です。子ども同志、ある時は暴力に訴え、怒りは叫びとなりまゝです。ある時には優しく、それは愛のささやきのようです。しかしともあれ、この時期の子どもたちにとって、同じような年令の友だちがあることは、彼らの成長にかけがえのない条件です。同じ赤い色のソックスをはいてきた子どもが朝玄関で一しょになり、それ以来何となく一日中親しくしているというような友情の結びつきもほほえましい限りです。フィンガーペインティングのためのエプロンのうしろのスナップは子ども同志でとめます。できないことはお互に助けあうことが大切で、それが非常に楽しいことを知ります。そばに誰がいても少しも話しかけもせず平気でいる子どももいますが、先生が適切な指導をすれば七、八人でも一しょに遊ぶことができます。ひとり遊びから平行遊びへ、やがてグループ遊びへと、先生はその一人ひとりの発達段階をよく観察して指導することが大切です。この時期に一人ひとりが安定感をもってのびのびと他の人のことを気にかげずに自信をもって遊べるようにしむけなければなりません。また他の人と遊ぶ方法も学ばせなければなりません。他人に迷惑をかけることも少しずつ理解することができる大切な時期であります。

ことばの発達の著しいことも三才児の特長といえましょう。言葉はどんなふうえてゆき、言語を媒介として友人関係が親密になり、十分に意味が理解できなくても、ことばを使用するおもしろさを経験いたします。ある日のこと、棒でボールをたたいて野球のまねをしているのをそばで見っていた子どもが、棒がうまくボールにあたらないうと、大きな声で「残念でした」というのです。またある子どもが他の子どもをたたいた時、とたんに「暴力反対」と叫んだのにはほとほと感心いたしました。

新しい遊びの材料、新しい友だち、新しい環境、これらによく適応してゆくことが要求されます。先生は子どもたちに望ましい、有効な経験をさせるために毎日のカリキュラムを工夫いたします。ねんど遊び、フィンガーペイントやボスターカーラーによる描画、積木による遊びなどのなかに子どもたちはあたかも小さな芸術家、建築家のように創造力を発揮いたします。絵具のチューブのふたのあけ方、しめ方、絵画がながれないようにすることや、小さい筋肉の用い方、身のこなし、身体のコントロールなども学んでゆきます。構成玩具で遊ぶうちに思考力や推理力も身につけます。内に外に大筋肉の発達を促す玩具が魅力的に配置され、子どもたちの興味をさからってゆきますが、こうした遊びに没頭しているうちに、子どもたちの手足も頭も心も成長してゆくということは何とふしぎなすばらしい事実でしょう。十姉妹がふえることに驚きの目をみはり、飼育

してある亀の子の様子をまんじりともせず眺め、おいかけてもおいかけてもつかまえられるい死とあくことなく戯れます。小鳥も動物も彼らの友だちです。草花の芽が出、花が咲くことにも驚きの経験をいたします。美しい音楽や童話、童謡、絵本などはほとんどの子ども大好きな経験です。歌う子ども、楽器を手にする子ども、リズム反応をする子どもの姿は本当に楽しそうです。お話にききいる子どもは天使のようです。毎日与えられる芸術的香りの高い音楽や文学を通して子どもたちは豊かな情緒を育てられ、子どもなりの明るい希望にみちた人生観を築いてゆきます。見えない神様のことにについても学びます。お祈りを覚えた子どもが、神様が今日もおいしいミルクをありがとう、ってお祈りしたら、神様がどういたしまして”とおっしゃったよと、実感をもって話します。

子どもたちにとって楽しい経験は不可欠であり、また新しい種々の経験によって日々成長し、環境に適應する力を養ってゆくのであります。それが同時に絶え間なく繰り返される毎日の生活の営みのなかで彼らは訓練されることが必要であります。

* 訓練の場としての Nursery School

三才児はある時には成長のための苦しみを経験しなければなりません。反抗期とよばれる時期にも遭遇いたします。要求することはたびたび周囲のおとなから理解されず、実験したいことは禁じられません。性格の欠点は否応なくおとなから批判されます。Nursery School の先生は彼らのこの困難な立場を理解する先生でなければな

りません。それと同時に彼らのもつ多くの問題は集団生活の中で訓練される必要があることを認識し、また彼らがたくましくこれに乗ってゆくとするために周囲のおとなの愛情のこもった暖かい励ましと指導が必要であることを覚えていなければなりません。清潔、排泄、着衣、食事、睡眠などのよい基本的習慣や、その他望ましいい行動が習慣化するために、その具体的な指導に充分な力がそがれ、できるだけ楽しく、容易にそのことができるように配慮が必要であり、そのために先生も子どもも忍耐つよくあることが大切です。一人の先生が受けもつ子どもの人数が少いことも、三才児の保育には非常に大切な条件となります。

最後に三才児の保育は家庭との一貫した方針によって多くの教育効果が期待されます。子どもたちが家庭をはなれ、社会生活の第一歩をふみ出し Nursery School に入園したその日から、先生は一人ひとりの子どもの成長発達をよく理解し家庭よりの報告を参考にしつつ、カリキュラムをよりよく改善することを絶えず心にかけてながら、三才児保育の重要性に使命を感じ、母親と思いを一つにして保育を進めてゆく時、三才児独自の教育の機会は Nursery School において遺憾なく發揮され、幼児教育の本来の目的の一端を十分に達成することができると信じます。

(北陸学院保育短期大学付属ナースリー・スクール主事)

* * *